



No. 138 2016年 4月

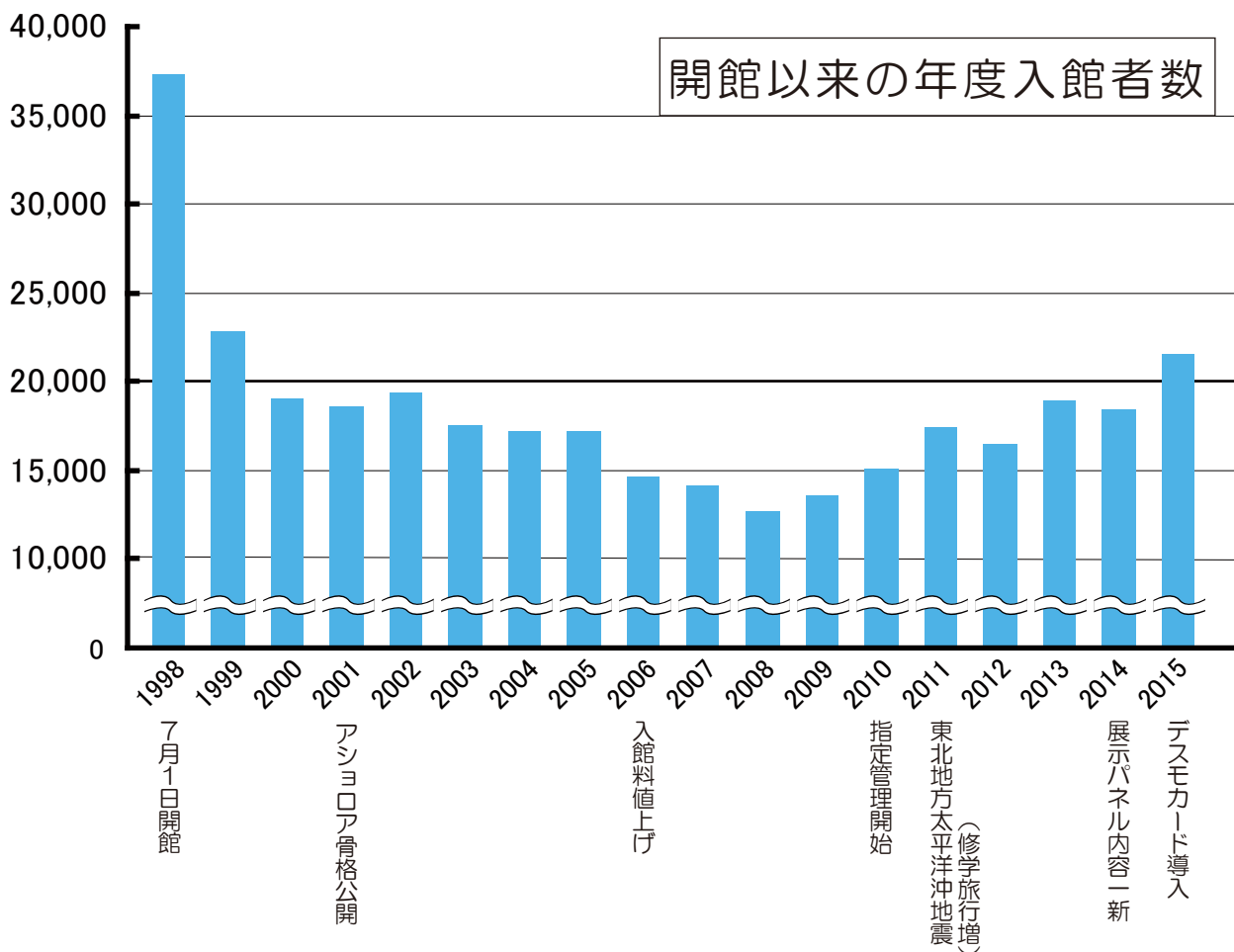
博物館だより

利用者 2万人回復

足寄動物化石博物館の年間利用者が、2015（平成27）年度、2万人を越えました。21,459人が入館されました。

2008年度には1万2千人台まで減りましたが、以降少しずつ増加に転じ、昨年度ようやく16年ぶりの2万人以上という水準にもどりました。

今後も、化石体験の充実や研究成果の広報に努め、楽しめる博物館、足寄をアピールする博物館を目指します。



足寄動物化石博物館 フォストリーあしよろ

指定管理者 NPO法人 あしよろの化石と自然

〒089-3727 北海道足寄町郊南1丁目 TEL 0156-25-9100 FAX 0156-25-9101

staff@museum.ashoro.hokkaido.jp

http://www.museum.ashoro.hokkaido.jp (博物館だよりpdf版あり)

No. 138

2016年 4月20日発行
(年4回発行)

ごあいさつ

博物館指定管理者 特定非営利活動法人あしよろの化石と自然
理事長 高橋一二

足寄動物化石博物館の指定管理者をはじめ7年目になります。幸い、化石体験が好評をいただき、また、職員の研究面での活躍が新聞紙上で紹介されるなどして、来館いただく方が増加する傾向が定着してきました。昨年度は、開館の次の年度以来の2万人以上の入館者をお迎えしました。

現在、研究や諸活動に携わる学芸員は3名おります。足寄着任前からそれぞれのテーマで化石研究や博物館活動に従事していました。足寄の化石のような「難物」を解明するには多様な能力が必要と判断したので、化石に関係したいろんな分野で活躍する人材を求めました。本号のほかの記事にもあるように、足寄の化石の新たな発見や最新技術の導入など、他の機関・研究者との共同をふくめて成果をあげつつあります。入館者の増加は目に見える形で表れたと言えるのではないのでしょうか。

町立博物館としては、化石研究のほかにも、北海道の成り立ちや十勝で起きる可能性のある地震のことなど、地域の地学に関する課題に応えることも必要です。この面でも、いろんな共同により成果を地域に還元できるよう努めています。

今年は、アショロア発見40年です。それは、北海道の成り立ちを調べる地質調査のなかでもたらされました。記念の2016年、化石のこと、北海道の大地のこと、多様な情報をみなさまにお伝えしようと考えています。今後発表する企画に、ぜひご参加くださるようお願いいたします。

ロビー展「足寄に大きなクジラがいた！」開催中！



デスモホールの壁を「泳ぐ」大型クジラ

足寄にいた大きなクジラ
を見に来ませんか？

学芸員も印刷してみても
びっくり！の8mのクジラ、
ロビー展（無料）で展示中
です。もちろん、実物標本
も見るができます。

5月25日まで。

発見から40年 アショロアのいま

アショロアの発見（1976年・昭和51年）から今年で40年。

発見当初は正体不明。1980年、第2の標本が発見され、その骨格の中に束柱類独特の胸骨が確認されたのが1984年。さらに、産出した地層が、従来考えられていた1500万年よりも1千万年ほど古い2800～2500万年前と判明。以降、二つの標本は束柱類の原始型として、束柱類の起源を解き明かすか、と期待されました。しかし、足寄博物館の研究紀要に発表された犬塚さんの研究では、歯やその周辺に原始的な特徴があるものの、束柱類の起源に迫ることは難しいことがわかりました。アショロアは、すでに海の動物としての束柱類になっていたからです。

アショロアは、束柱類としては、地理的には北太平洋という束柱類の生息域の中心近くにいながら、時間的には「最古」という縁にいることになります。

近年の化石研究は、骨や歯の形を目で見て調べるだけでなく、化学分析や顕微鏡レベルの微細な構造をみるなど新しい手法が取り入れられています。そのなかで、束柱類研究の新しい素材として、アショロアは重要な位置にあると言えます。



立つ骨格と泳ぐ復元図

肉眼レベルの研究もまだまだ重要です。博物館としては、泳ぐアショロアの骨格公開が課題です。足寄博物館の束柱類はすべて「地面」に立っていますが、背景の説明（復元図）は一昨年の改装によって一新され、泳いでいます。泳ぐ束柱類の骨格群公開、がいまの方針です。前号で紹介したように、デスモスチルスは泳ぎ始めています。7月の発見記念日には、アショロアも泳がせます。

ぜひご覧ください。

復元論文掲載

日本古生物学会が発行する学術雑誌「化石」vol.99号に、足寄動物化石博物館でおこなってきたデジタル3Dでの復元法が掲載されました。

この論文では、複数枚の写真を合成してつくった頭蓋骨の3Dモデルを組み込んで、およそ1000万年前に北海道にいたセイウチを復元しています。この技術を使うことでいままでよりも簡単に正確な復元を行うことができます。

今後はこの技術を使って、石こうで作る古生物模型や展示などで使う復元画の充実を図っていきます。



あしよろ化石教室 3回実施します

6月12日(日) 6月3日申込み締め切り
「足寄町螺湾らわん」2500万年前の哺乳類化石産地と
500万年前の貝化石

7月 3日(日) 6月24日申込み締め切り
「釧路市阿寒」500万年前の貝化石

9月 4日(日) 8月27日申込み締め切り
「白糠町右股」3000万年前の貝化石

※採取した化石は、持ち帰れます。職員の判断により館の標本になることがあります。
※保険料(一人100円、各回)をいただきます。

参加方法

各回の申込用紙に必要事項を記入して、
博物館へ 締切りまでにとどけてください。

来館、ファックス、郵便、で。
eメールの場合は用紙書式でなくてもOK。

申込用紙は、博物館受け付けにあります。
ホームページからも入手可能です。

集合場所、時刻などの資料は締切りのあとに
お送りします。

「石はみがくと玉になる」地質の日 協賛イベント

日 程：5月8日(日) 午前10時30分
所要時間：1時間～
集合場所：足寄動物化石博物館 化石工房
材 料 費：300円 (入館料はいりません)
みがく石：アショロアの模様入りの**十勝石**
日高山脈の**結晶片岩**(きらきらした石)
※自分のみがきたい石をもってきてもいいよ。



探鳥会 予約不要・参加費無料

第2回 5月8日(日) 午前8時
里見が丘公園駐車場の芝桜園入り口集合
(郊南交差点から西へ、国道241号沿い)
*不明な点は博物館までお問い合わせください。

2時間くらいです。十分な防寒で
おこしてください。双眼鏡、カメラ、
筆記用具があるとより良く観察が
できます。

足寄動物化石博物館の利用について

- 開館時間 午前9時30分～午後4時30分(入館締め切り時刻)
- 休 館 毎週火曜日(祭日の場合は開館し、翌日またはその後の平日)
年末(12月30日から)・年始(1月6日まで)
- 料 金 一般 400円、小中高・65歳以上 200円
幼児は無料。足寄町内の小中学生は無料。
※館の主催事業の際は、無料にすることがあり、その都度お知らせします。



編集後記

念願の「入館者2万人」を達成できました。でも、目標はもっともっと……。化石体験ミニ発掘の内容が変わりました。新顔クリスタルの鮮やかな色合いが好評です。化石の形もおもしろいですよ。